

日本英語教育史学会 会報

287

2018 年 6 月 25 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行 〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第34回全国大会 (広島大会) 報告

2018 (平成 30) 年 5 月 19 日 (土)・20 日 (日), 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま (広島県広島市) において第 34 回全国大会 (広島大会) が開催されました。初日は竹中龍範氏 (元香川大学) による「私の英語教育史—研究と教育と—」と題する記念講演と, 特別企画として広島大学名誉教授の小篠敏明氏, 田中正道氏, 三浦省五氏による「鼎談: 広島の英語教育を語る」が行われました。第二日は 9 本の研究発表が行われ, 2 日間でのべ延べ 84 名の参加者が集いました。ご参加いただいた皆様, 関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。以下に出席者の感想を掲載しますのでご参照ください。



県立広島大学サテライトキャンパスひろしまにて (2018. 5. 19)

< 1 日目 >

◆今日の講演で英語教育の歴史を知ることができました。今まで英語教育の歴史や広島の英

語教育について知る機会がなかったので, 良いきっかけとなりました。また英語教育について調べてみたいと思いました。



竹中 龍載 氏

小篠 敏明 氏



田中 正道 氏



三浦 省五 氏

◆英語教育を日本で確立するまでの苦労などが分かりました。また、昔の英語教育についてや、英語教育史の竹中先生の 40 年間の歩みもよくわかりました。(学生)

◆垣田先生が英語界に与えた影響について詳しく知りたいと思いました。時代の常識にとらわれず新しい自由な発想により英語教育が進んできたのだと感じました。(県大生)

◆「資料を探していると、資料の方から招いてくれる」竹中先生が『英語教育』の明治版を探していると言われたときの言葉が印象に残りました。

◆竹中先生のお話は、私にとって少し難しかったです。英語の研究はとても広いなと思いました。「広島の英語教育を語る」では、私が知っている出来事が、広島の英語教育に関わっていたので驚きでした。参加させてもらって、ありがとうございました。

◆こういった学会には初めて参加しました。英語教育史についての知識がほとんどない状況で参加させてもらったので、内容が全て理解できたわけではありませんが、日本の英語教育史に大きく影響を与えた方々の話など、興味のある話が聞けてよかったです。また講演を聞ける機会があれば参加してみたいと思います。

◆竹中先生が約 40 年間、英語教育史においてどのような研究や授業をされてきたかを知ることができました。また、広島大学の 3 人の教授のお話を聞いて、広島県の英語教育の歴史について学べたのでよかったです。

◆今まであまり英語教育史と言う分野に触れることがなかったが、今日の講演を聞き、興味がわきました。英語教育の歴史や有名な方について知ることができてよかったです。

◆先生方のお話は、英語教育史学会ならではだったと思います。この 40 年、50 年の歴史をたどり、懐かしく、また興味深く思える方も多かったのではないのでしょうか。(久保野りえ)

◆(記念講演について) 竹中先生のことを初めて知ったのですが、話を聞いて、これまで多くのことを成したり関わってこられたので、このように多くのこと、人に影響を与えておられるのは凄いなと思いました。(特別企画) 3 名の方が広島の学校について話してくださり、出てきた方々のお名前も同じ方があったりしたので、ゼロから広島の教育を作り上げてきたというのは素晴らしいなと思いました。自分も、自分にできることを精一杯して、多くのことを成していけたらいいなと思いました。(青木)

◆英語教育について全く知ることがなかったで、人物の名前や学会のお話は難しかったです。でも前半と後半の 2 つの回を聞いてみると、英語教育の中の有名な方や、大きな出来事が少し分かるようになりました。聞いている中で自分の知らない単語が出てきたりもしたので、家に帰って調べてみようと思いました。

◆(記念講演について) 八つの観点から魂の「遍歴」(?) が語られた素晴らしいご講演でした。これからもお元気で会員をお導きください。

(もみじまんじゅう)



島岡 丘 氏



平井 清子 氏



藤村 達也 氏



上野 舞斗 氏

◆今年度の広島での全国大会は、広島大学学部・大学院に 9 年間在学、40 年近くもの長きにわたり香川大学で教育・研究された竹中龍範先生の記念講義で始まったことに喜びを感じる。彼のこれまでの研究は極めて緻密な歴史の軌跡を描いたものであり、貴重なものであった。退職後も引き続き歴史研究を継続し、歴史を創って欲しい。長年、本学会のみならず母校の学会にも尽くされ、私と同じ研究室を支えていただいたことに厚く御礼を申し上げたい。

小篠先生、田中先生の広島の英語教育の講話を聞いて、私は恩師の面影を偲び更に一層、感謝の念が強まった。当時、「英語学・英文学が一番だ！」と言われたのは確かであろうと・・・ (三浦)

◆本日、初めてこのような日本の英語教育に関する学会に参加しました。私の知らないことだらけで感嘆ばかりしておりました。今私は、大学で学んでおりますが、何度もアクティブラーニングについて説明を受けましたが、この概念となるものが 1800 年代の終わりには確立されていて、非常に驚きました。「広島叡智学園」については、私の中学時代に英語を教えていただいた先生が教頭になられるそうなので、かねてより興味を抱いておりました。良い学校になるのではないかと勝手に思っております。本日は、貴重な経験を語っていただき、ありがとうございました。 (河野清楓)

◆小篠、田中、三浦先生による鼎談は、広島大会にふさわしい企画で、同世代の 3 人によるも

のながら余り重複するところもなく、懐かしい先生方のお話しに自分の学生時代を思い起こしながらお聴きました。 (Dragon)

< 2 日目 >

◆研究発表が 9 本、うち半数がニューフェイスによる発表ということで、これからもこの流れが続いてほしいと願っております。また、あわせて、今回のご発表を『日本英語教育史研究』第 34 号への投稿にぜひ繋げていただきたく思っております。 (Dragon)

◆たくさんの研究発表聞いて、私にとっては難しかったです。その中でも、私は溝口悦子先生のオリンピックのことが印象に残りました。オリンピックが開かれることで、英会話ブームが起こり、英検が始まったり、書籍の売り上げが伸びたりと、いろいろなことが起こっていたことがわかりました。今日の研究発表で、発表についても先生方の質問についても、そういう見方があるのかととても勉強になりました。ありがとうございました。 (佐藤帆夏)

◆英語について、様々な視点からの研究発表を聞いて、良い体験になった。折角幼い頃から英語を学んでいるから、その意義を考えながら、これからも学び続けていきたいと今回の大会で思った。 (上原麻裕香)

◆短くとも充実した研究発表ばかりでした。皆さんよく時間を守られていましたが、発表と発表の間に 1~2 分でよいので交代の時間を設定してはどうかと思いました。 (久保野りえ)



馬本 勉 氏



久保野 りえ 氏



下 絵津子 氏



溝口 悦子 氏

◆ (平井清子氏の発表について) 戦後の台湾における英語教育の変遷を教科書中の文学作品を通して捕捉しようとする試みを拝聴し、とても勉強になりました。昔から文学教材は「論理的思考」の育成に寄与すると言われてきましたが他教科でもそれは可能であり、英語科としてはどのような独自性が期待できるのかが気になり始めました。

(馬本勉氏の発表について) 英語単語カードが英語指導のツールとして存在していたことは承知していましたが、広島高師附属中学校がこうしたカードを作っていたことを知り嬉しくなりました。実物を見せてくださり本当にありがとうございました。語義のみならず文例が示されており、「機能的」な英語学習につながると思いました。

(久保野りえ氏の発表について) パーマーは昭和6年6月から翌年3月までの9ヶ月間、欧米の外国語授業の視察に出掛け、帰国直後に自由学園で講演を行っております。その中でシカゴ大学附属中学校での授業に特に感銘を受け、それまでの前のめりの主張・授業を考え直さねばと自戒を込めて語っています。この視察ツアーが転換の「決定打」となったことが伺えます。ご参考までに。

(下絵津子氏の発表について) 中学校側からの上級学校入学試験への要望(不満?)は古くからありましたが、英語かドイツ語かの論議がこれほど真剣になされていたことは知りませんでした。大いに勉強させていただきました。

(溝口悦子氏の発表について) 1964年の東京五輪は敗戦後20年でここまで立ち直ったということをアピールする英会話ブームであり、その姿勢にはまだ「後進性」が感じられると思います。2020年の東京五輪は「おもてなし」のレベルまで進化し、これでひとまず一人前の国になったという気がします。

(もみじまんじゅう)

◆日本の明治・昭和から、外国である台湾、そして現在に至るまで、様々な英語教育史、そして英語のあり方というものが学べて、どれも非常に興味深いものばかりでした。これからの英語教育について、私たち大学生も考えていきたいです。

(小山真渚美)

◆今日は英語教育についてたくさんのお話を聞くことができとても勉強になりました。英語教育の歴史など知らなかったことを知ることができました。また、社会のグローバル化が進む中で英語教育のやり方などは考えていくべき重要なことだと感じる事ができました。

(富田侑里)

◆日本の英語教育史について、さまざまな視点からの発表を聞いて、学生生活で英語を習得するために学ぶ普通の授業では知ることができなかったことを知ることができてとても興味深かったです。特に研究発表2の広島に関する発表は、自分の住む地域のことであるので興味を持ちました。英語教育はこれからも更に変化していくと思うので、その変化についてまた聞く機会があればよいと思います。(谷本明徳)

◆本日は、たくさんの貴重な発表を聞かせていただき、大変勉強になりました。現在進んでいる研究について聞き、私の知識では理解が難しいと感じることも少しありましたが、普段あまり接することのない「英語」という分野への興味が高まりました。私は昨年度まで公立の高等学校で実際に英語の教育を受けていました。その授業の中では、1年次に数回 ALT の先生と会話する授業があったのみで、後は「受験英語」を教わっていました。今までは、そのことに対して特に意識することはありませんでしたが、今回、学問としての「英語」について聞き、自分がまだ英語の一部分しか見ておらず、触れてこなかったことを痛感しました。これから大学生活で、社会人になったときに活かせるような、教養としての英語について、意識して学ぼうと思います。また、私は将来、聴覚や発声に関わる職につきたいと考えています。今日の発表の中で Oral Method 等、英語の学習において言語聴覚機能を活用する方法をいくつか聞きましたが、この機能に障がいを持った学習者についてはどのようなサポートを想定しているのか疑問に思いました。そういった方に対する学習の方法や歴史についての研究があれば、ぜひ詳しく知りたいと思います。今回学ばせていただいたことは、多くの場面で参考になると思います。このような会に参加させていただき、ありがとうございました。(木村典佳)

◆私は、英語に関する様々な研究発表について聞いて、自分自身が今まで考えたことのない視点から多くのことを学ぶことができました。英語の歴史研究や教育研究について興味深い内容のものが多かったです。広島と英語教育に関わりがあったこともわかりました。今まで、英語の単語や文法について学ぶことだけだったため、英語に関する歴史とのつながりを知ることができ、新たな視点をもって英語について考えていきたいと思いました。また、受験英語教育に関する研究発表では、構文主義で英文の内

容を理解して、教育主義で思考力を伸ばすという考えについて考えたことはありませんでした。私の受験勉強のやり方は、構文主義であったのかと思いました。内容や文法を学んだだけでなく、そこから、本を読むなど、思考力を高めていきたいと思いました。(渡部千絵)

◆今日の発表で英語の教育史として、最初は文字から学ぶのではなく音声や聴覚から学ぶ方が良いということを知り、なぜ効果的な英語の学習法が伝えられているのに初等教育の1年次から英語を実践してこなかったのかと思っていましたが、午後の発表で脳が関与しているからだということが理解できました。しかし、それは初等教育だけで、中等教育から高等教育まで受験を見越した学習ばかりで英語の正しいリズムや強弱をしっかりと学ぶことができなかったという思いがあります。今まで学んで理解していたのは合格することを目的とした「受験英語」だったので、大学での英語は自分のための英語にしていきたいと思います。また、これまで英語の単語や文法を学ぶことばかりだったので、今日のことを機に、英米の書籍や雑誌を読んでみたいです。(前川優月)

◆今の自分にとっては理解しがたい難しい内容の話が多くあったが、受験での英語やオリンピック開催を通しての英語発展の話は興味深く、話を聞きながら考えることができた。様々な年代の人の話が聞けて良い機会となった。ありがとうございました。(福島千聖)

◆私は滋賀県出身なので、竹中先生が学生の頃に書かれた彦根藩の洋学のことについて、どういものであるのか、とても興味を持ちました。

◆私が考えたこともなかった視点から、英語教育についての発表が行われていて、聞いていて新たな発見や、自分の視野を広げてもらった気がしました。そして中でも、英語教育が大正時代から行われていたことに驚きました。私は、小学5年生の時に英語教育が導入されて、外国の方が来て教えてくださっていたので、それが

行われる前の期間はどのようにして英語教育がなかったのか疑問に思いました。それから私が高校の時は、英語の授業では主に読み書きが重視されていて、Speaking はあまり重視されてい

なかったです。ということは、Oral Introduction がまだできていない現状だからなのかなと感じました。
(渡部志保)

研究発表タイトル・発表者一覧

- ・ A new approach to the English SKT
島岡 丘 (筑波大学名誉教授シニア・プロフェッサー)
- ・ 教科書にみる戦後台湾の英語教育の変遷－文学作品の特徴をとらえて
平井 清子 (北里大学)
- ・ 伊藤和夫の「受験英語」教育に関する研究
藤村 達也 (京都大学大学院)
- ・ 忝田與惣之助の音声指導
上野 舞斗 (関西大学大学院)
- ・ 広島における英語基本語の史的検討
馬本 勉 (県立広島大学)
- ・ ハロルド・E・パーマーの転換についての考察
久保野 りえ (筑波大学附属中学校)
- ・ 1898 年全国中学校長会議：英語かドイツ語か
下 絵津子 (近畿大学)
- ・ 1964 年東京オリンピックにおける英会話ブームと『オリンピック国民運動』
溝口 悦子 (拓殖大学)
- ・ 京城帝国大学予科入学試験問題 (英語) 瞥見
田中 正道 (広島大学名誉教授)

大会を終えて

大会実行委員長 馬本 勉

全国大会に関わってくださったすべての方に心からのお礼を申し上げます。広島県での開催は、2001年に広島大学で開催した第17回大会、2011年に県立広島大学で開催した第27回大会に続いて3回目となります。いずれも実行委員長を務め、そのたびに私を成長させてくれる貴重な機会となりました。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

広島大会では常に「広島」を意識しています。第17回大会の記念講演は、故松村幹男先生による「広島英語教育の先達」でした。第27回大会では特別企画「資料が語る広島の英語教育史 (シンポジウムと資料展観)」を行いました。そして第34回となる今回は、初日に講演と特別企画の両者を行う、まさに「広島づくし」のプログラムとなりました。

記念講演をお願いした竹中龍範先生は、広島大学在学中に松村幹男先生の授業で英学史と出会い、日本英学史学会広島支部の創設、そして本学会の設立 (当時は日本英語教育史研究会) にかかわられたことなど、ご自身の英学史・英語教育史研究の歩みを熱く語って下さいました。特別企画「鼎談：広島の英語教育を語る」は、小篠敏明先生、田中正道先生、三浦省五先生にご登壇いただきました。学生時代の広島大学での恩師、中でも英語教育学の確立に尽力された垣田直己先生のこと、

国内外での研究活動、多くの英語教師を輩出してきた教育活動についてなど、たくさんのエピソードをご紹介くださいました。

二日目の発表は、実に様々なテーマで日本の英語教育史の実相に迫るものでした。特筆すべきは、9発表の半数を上回る5名の発表者にとって、今回が本学会の「発表デビュー」であったということです。新たな勢いを感じる大会であったことを喜びたいと思います。

私は自身の発表中、「広島のリガシー」という言葉を用いました。広島には、明治期から戦前期に至る先進的な英語教育実践から、戦後の英語教育学樹立へ向けての確かな歩みがありました。その歴史の重みを伝え、現代的な輝きを持たせること。それをこの地で思い起こし、これからの英語教育を考えていきたい。そういう思いがありました。もちろん、これは広島に限ったことではありません。全国に会員を持つわが学会が、それぞれの地域の英語教育の歴史に目を向け、一同に会することで日本の英語教育の前進に寄与すること。これがわが学会の役割であろうと思います。今回の全国大会における講演、鼎談、研究発表のすべてを通じ、この思いを新たにしました。

皆様へ重ねて感謝の気持ちを申し上げ、私の振り返りを閉じたいと思います。まことにありがとうございました。

大会関係各位への感謝

日本英語教育史学会会長 江利川 春雄

第34回全国大会（広島大会）の開催に際しまして、アクセスの良い快適な会場をご提供くださいました県立広島大学の関係各位、とりわけ大会会長をお引き受け頂きました中村健一学長、開催校の馬本勉実行委員長ほか実行委員の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。

「私の英語教育史——研究と教育と——」と題された素晴らしい記念講演を賜った竹中龍範先生（元香川大学教授）、さらには特別企画の「鼎談：広島の英語教育を語る」にご登壇いただいた小篠敏明、田中正道、三浦省五の諸先生（いずれも広島大学名誉教授）に心からの感謝を捧げます。

質の高い研究発表をしてくださった大学院生から重鎮に至る会員の皆さま、本当にありがとうございました。ぜひ研究例会での発表や、学会紀要への論文投稿もお願いいたします。活発な質疑応答で大会を盛り上げてくださった参加者の皆さまにも厚く御礼申し上げます。

日本英語教育史にとって広島は「聖地」です。櫻井役『日本英語教育史稿』（1936）、定宗数松『日本英学物語』（1937）をはじめ、広島関係者は戦前から英語教育史研究をリードしてきました。その伝統は今日まで綿々と続き、重厚な研究蓄積と多彩な研究者層を形成してきました。今回ご登壇いただいた4人の先生がいずれも広島大学出身者であられることが、そのことを雄弁に物語っています。

近年はさらに、本学会副会長の馬本勉先生、事務局長の河村和也先生が勤務される県立広島大学も拠点の一つとなり、「聖地」の名に恥じない英語教育史研究を続けておられます。その県立広島大学で、全国大会が成功裏に開催できましたことを皆さまと共に慶びたいと思います。

特に感動したのは、化学がご専門の中村健一学長が、ご多忙な中、初日の講演、鼎談、懇親会のすべてにご参加くださったことです。私も親しくお話させていただき、その学識とお人柄に魅了されました。馬本副会長が学長補佐として献身されている理由がわかった気がします。同大学の学生の皆さんも、最後まで熱心に聴いてくださいました。「この学長にこの学生あり」だと思いました。

皆さま、本当にありがとうございました。

>> 事務局より

>> 2018年度 会員総会 報告

2018年度の会員総会は、大会初日の5月19日、開会式に引き続き県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」501大講義室で開催されました。副会長の田邊祐司氏（専修大学）の司会で始まった会は、最初に久保野雅史氏（神奈川大学）を議長に選出し、以下の議事を進行しました。

○ 活動報告・会計報告

活動報告・会計報告の内容は別掲の通りです。総会では、事務局長の河村和也（県立広島大学）による両報告に続き、安部規子氏（久留米工業高等専門学校）・平賀優子氏（慶應義塾大学〔非常勤〕）による会計監査報告が議長により代読され、2017年度の会計報告については拍手をもって承認されました。

○ 役員選出

任期満了にともなう会長の選出については、締め切りまでに以下の立候補のあったことが、選挙管理を担当した事務局より報告されました。

会 長 江利川 春雄（和歌山大学）

総会では、江利川氏を新会長として選出。江利川会長からは新役員の体制について説明がなされました。新たな役員体制は以下の通りです。

2018年度 日本英語教育史学会役員

（波線は新任）

会長	江利川春雄					
副会長	馬本 勉		田邊 祐司			
事務局長	河村 和也					
理事	赤石 恵一	<u>榎本 剛士</u>	川嶋 正士	河村 和也	<u>久保野雅史</u>	
	<u>西原 雅博</u>	拝田 清	藤本 文昭	若有 保彦		
幹事	青田 庄真	上野 舞斗	<u>惟任 泰裕</u>			
評議員	青木 庸效	今野 鉄男	佐藤 恵一	島岡 丘	西 忠温	
	茂住 實男					
顧問	小篠 敏明					
名誉会長	竹中 龍範					

会計監査	安部 規子	平賀 優子
------	-------	-------

○ 審議事項：学会賞規程について

会長より、学会活動の活性化のため以下の通り学会賞の規程を見直したい旨の提案がなされ、拍手をもって承認されました。

1. 論文部門（従来通り）
2. 著書部門（新設）

*いずれも審査担当は従来通り会長・副会長・論文審査委員。

*著書部門の対象となるのは前年10月末日までの1年間に刊行されたもの。

○ 審議事項：日本英語教育史学会最優秀発表賞について

引き続き、会長より以下の方針のもと新たな賞を設ける旨の提案がなされ、拍手をもって承認されました。なお、規程の詳細については理事会に一任されました。

*全国大会で最優秀と認められた研究発表者に授与する。

*参加者の投票を踏まえて理事会で決定し、大会の閉会式で表彰する。

*受賞者は研究例会での発表の機会を優先的に得るものとする。

2017年度活動報告 -----

1. 全国大会

第33回全国大会を2017年5月20日（土）・21日（日）の両日にわたり福島県郡山市の日本大学工学部を会場に開催した。

2. 学会誌

2017年5月、学会誌『日本英語教育史研究』第32号を刊行した。

3. 会員動静

2017年度中の中入会者は13名、退会者は5名で、年度末の会員数は127名となった。なお、2018年4月以降に3名から入会の申し込みがあったため、2018年度の会員名簿に掲載される会員数は130名となる。

2017年度会計報告 -----

2017（平成 29）年度 日本英語教育史学会収支決算報告

2017（平成 29）年 4 月 1 日 ～ 2018（平成 30）年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
繰越金	1,554,991	月報関係費	52,298
学会費	541,000	事務活動費	224,811
紀要代金	20,000	大会補助費	0
広告代金	0	紀要経費	326,120
雑収入	29,819	雑費	0
寄付	0	支出合計	604,093
郵便局利子	239		
銀行利子	2		
収入合計	2,146,051	繰越金	1,446,339

以上相違ありません。

2018年5月14日

事務局会計 河村 和也 印

会計監査 平賀 優子 印

同 安部 規子 印

○前年度に引き続き赤字（49,746円）となったが、全般的に安定した収支状況を維持しており、会の将来に影響のおよぶものではないと考えている。

○収入面では、すべての方に会費を納めていただくため、案内の方法を検討したい。

○支出面では、学会誌の出版経費はここ数年30万円程度で安定している。また、研究例会を順天堂大学・県立広島大学・しんらん交流館で開催できているため、使用料の支出はかなり抑えることができています。

2017年度第3回理事会報告

2018年度全国大会・会員総会の開催に先立ち、2017年度の第3回理事会が以下の通り開催されました。

日 時：2018年5月19日（土）11:30～12:00

場 所：県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」501大講義室

議 事：

1. 会員総会の進行次第について打ち合わせました。
2. 会員総会での審議事項および会員総会への報告事項について確認しました。
3. 新年度の役員体制について検討しました。
4. 学会賞規程の改正および日本英語教育史学会最優秀発表賞の新設について検討しました。

* 2～3の詳細は総会報告の通りです。

2018年度第1回理事会報告

会員総会で新会長が選出されたことを受け、大会第2日の昼休みに2018年度の第1回理事会が以下の通り開催されました。

日 時：2018年5月20日（日）12:10～12:30

場 所：県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」501大講義室

議 事：

1. 役員の業務分担について検討・確認しました。
2. 論文審査委員会・紀要編集委員会の体制について、以下の通り決定しました（波線は新任および新設）。

論文審査委員会	竹中 龍範（委員長） 馬本 勉 江利川春雄 川嶋 正士 河村 和也 久保野雅史 田邊 祐司 西原 雅博
紀要編集委員会	西原 雅博（委員長） 馬本 勉（次長） 赤石 恵一 榎本 剛士 久保野雅史 惟任 泰裕 藤本 文昭

3. 学会誌の24号以降をJ-stageにアップロードするため、その方法について情報を収集することを決めました。また、担当者を決める必要を確認しました。

○ 学会賞について

今年度の日本英語教育史学会賞については、受賞に該当する方はいらっしゃいませんでした。

○ 学会誌『日本英語教育史研究』第33号の送付について

全国大会にお越しになれなかったみなさまには、この会報の発送にあわせ、新しい学会誌および会員名簿をお送りいたします。会費納入をお願いする文書(「紀要の送付と年会費の納入について」)を同封いたしますので、早期の納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。全国大会までに今年度分をお納めくださったみなさまには、納入日を記した文書(「会費紀要の送付について」)を同封いたしますので、どうぞご確認ください。

なお、1年もしくは2年分の会費が未納の方には、学会誌・会員名簿はお送りせず「会員継続のご案内」のみをお送りいたします。ご確認のうえ、よろしくご対応くださいますようお願い申し上げます。

)) 年会費の納入について

年会費は以下の通りです。今一度ご確認くださいませようお願いいたします。なお、学生会員は初年度の会費が免除されています。

年 会 費	一般：5,000 円 / 学生：3,000 円 (大学院生を含む)
-------	-----------------------------------

年会費は以下の口座にご送金ください。口座名義は「日本英語教育史学会」です。恐れ入りますが、手数料はご負担くださいますようお願いいたします。

- | |
|---|
| <p>(1) ① 郵便局で払込取扱票をご利用の場合
 ② ゆうちょ銀行の総合口座(旧ばるる)よりご送金の場合
 → ゆうちょ銀行 [振替口座] 00150-3-132873</p> <p>(2) ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合
 → ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュウ)店 [当座口座] 0132873</p> |
|---|

上に掲げた2つの口座は同一のものです。ゆうちょ銀行の「振替口座」は、ゆうちょ銀行以外の金融機関から送金する場合には「当座口座」の扱いとなり、支店名や口座番号が他の金融機関の形式に合わせたものとなります。

近年、払込取扱票によらずご送金くださる方が増えておりますので、これを同封するのを取り止めております。払込取扱票をご利用の場合、お手数ですが郵便局の窓口で「0」から始まる口座への送金とお伝えのうえお受け取りください。

なお、これまでお使いいただいていた三菱 UFJ 銀行(旧三菱東京 UFJ 銀行)千住中央支店の口座は、事務局の移転にともない運用を停止させていただきました。他の金融機関よりご送金の場合も、ゆうちょ銀行の口座をご利用くださいますようお願い申し上げます。

)) 『日本英語教育史研究』第34号投稿論文の募集

来年5月に刊行予定の研究紀要『日本英語教育史研究』第34号への投稿論文を募集します。投稿締切は10月31日(水)(消印もしくは受付印有効)です。どうぞ奮ってご投稿ください。

(1) 送付先 (編集委員会次長)

〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学庄原キャンパス 馬本 勉 宛

(研究室直通電話：0824-74-1725／紀要関係専用メールアドレス：kiyo@hiset.jp)

(2) 提出方法：

執筆者名を明記したもの 1 部と執筆者名をふせたもの 2 部を、(1)の送付先に郵送してください。また、受領した旨を連絡するため、ご自分の宛先を明記した葉書を 1 枚同封して下さい。

(3) 注意事項：

投稿規程・標準書式は、『日本英語教育史研究』第 32 号をご参照ください。次のリンクより閲覧も可能です。 http://hiset.jp/toko_kitei.pdf

(4) 事前指導：

以下の投稿規程第 4 項に基づき、論文の事前指導をします。ご希望の方は、草稿を(1)の送付先まで 1 部ご郵送ください。草稿のファイルを電子メールに添付し、kiyo@hiset.jp 宛てにご送付くださってもかまいません。

4. 過去に『日本英語教育史研究』に論文 (研究ノートを含む。) が掲載されたことのない会員は、論文投稿を前提に、事前指導を2回まで受けることができる。その場合、草稿 (途中段階も可) を8月10日までに日本英語教育史学会紀要編集委員会に提出する。投稿論文提出時には、事前指導を踏まえていかなる改訂を行ったかを明示した別紙を論文と共に提出することとする。

)) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 268 回研究例会 2018 年 7 月 21 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 269 回研究例会 2018 年 9 月 15 日 (土) 広島で開催予定
- ◆ 第 270 回研究例会 2018 年 11 月 17 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 271 回研究例会 2019 年 1 月 12 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 272 回研究例会 2019 年 3 月 16 日 (土) 京都で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (11 月発表希望であれば 8 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

)) 新入会員

- ◆ 二五 義博 (にご よしひろ) 呉市 海上保安大学校

)) 英語教育史フォルダ

- ◆ 本学会評議員の西忠温先生が支部長を務める日本英学史学会九州支部が、『日本英学史学会九州支部発足 40 周年記念論文集録』第 2 号を刊行した。内容は「旧制第五高等(中)学校お雇い外国人英語教師の調査・研究：夏目金之助(漱石)教授とラフカディオ・ハーン(八雲)の業績再評価の試み」。11本の論文と特別寄稿3本、参考資料9点を収めた充実した論集である。お問い合わせは同支部事務局の本田憲之助氏(kenhonda@s5.kcn-tv.ne.jp)まで。

日本英語教育史学会 第 268 回 研究例会

日 時： 2018 年 7 月 21 日 (土) 14:00~17:00

場 所： 専修大学 サテライトキャンパス

神奈川県川崎市多摩区登戸 2130-2 アトラスタワー向ヶ丘遊園 2 階
(小田急線向ヶ丘遊園駅北口徒歩 1 分)

研究発表①

第一高等学校入学試業の外国語科目：1880 年代から 1910 年代の変遷

下 絵津子 氏 (近畿大学)

【概要】発表では、1880 年代から 1910 年代の第一高等学校の入学試業における外国語の扱いの変遷を明らかにする。入学試業における外国語を英語に一本化する方針が立てられたのは 1886 年だ。その後、一部でドイツ語が指定されるなどの変更を経て、1919 年には「官立高等学校高等科入学者選抜試験規程」により英語・ドイツ語・フランス語が入学試業の外国語に指定された。この間の具体的な変遷を確認し、その背景と影響を考察する。

研究発表②

『英語青年』から読み取る細江逸記の規範的文法観：「5 文型」断章 2018

川嶋 正士 氏 (日本大学)

【概要】日本において「5 文型」を初めて本格的に提唱したのは細江逸記の『英文法汎論』(1917)であるとされる。細江は序文で Sweet の New English Grammar に影響を受けたと述べる。Sweet の科学的統語論に傾倒しながら Onions による規範的な文法観を象徴する「5 文型」を中心に据えた背景を、細江の著作や記事が多く見られる『英語青年』を資料として読み取ることを試みる。

参加費： 無料

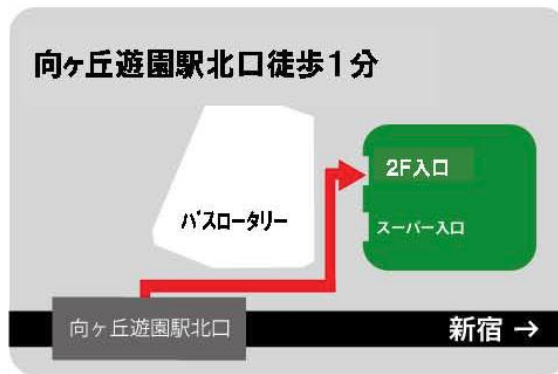
問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

- ◆ 研究例会はどなたでもご参加いただけます (予約不要)。
- ◆ 例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。

【会場案内】(専修大学ウェブサイト (<https://www.senshu-u.ac.jp>) 内にある「サテライトキャンパス交通アクセスご案内」より)

専修大学サテライトキャンパス交通アクセスご案内

- 小田急線向ヶ丘遊園駅北口下車。(新宿から急行で約 20 分)
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄あざみ野駅より向ヶ丘遊園駅行バスで約 45 分、終点下車。



<所在地>

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸 2130-2

アトラスタワー向ヶ丘遊園 2 階 204 号室

電話・FAX 044-922-0992

EDITOR'S BOX 週末に勤務校が会場となるある学会の大会準備に追われています。実行委員長を務めるのは 2010 年の日本英語教育史学会秋田大会以来なのですが、あの時は河村先生や馬本先生、また会場のカレッジプラザからのサポートも大きく、いただいたご指示の通り動いていれば何とか務まっていた。しかし今回は自分で判断しなければならぬ部分が多く、大会運営のノウハウ不足を痛感しています。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 geppo@hiset.jp)